横浜会場 YOKOHAMA

ベルトラン・マンディコ x 鈴木卓爾　Bertrand Mandico x Takuji Suzuki

フランス映画界では類を見ないファンタジックホラーな世界観と官能的な造形美で注目を集めているベルトラン・マンディコ監督の日本初公開作『ワイルド・ボーイズ』の上映に併せて、日本映画界に前代未聞の発想で革新をもたらし、今もなお映画づくりの新しい可能性を提示しつづける鈴木卓爾監督の名作『ジョギング渡り鳥』をご紹介します。

★『ワイルド・ボーイズ』上映後、ベルトラン・マンディコ監督、鈴木卓爾監督、俳優のエリナ・レーヴェンソンによるアフタートークを予定。

© Ecce Films
[フランス／2017年／110分／カラー & モノクロ／デジタル／フランス語／日本語字幕]
R12+

ワイルド・ボーイズ｜ *Les Garçons sauvages* de Bertrand Mandico

＜2017年ボルドー国際インディペンデント映画祭長編部門グランプリ受賞＞

監督：ベルトラン・マンディコ
出演：ヴィマラ・ポンス、ポリーヌ・ロリラール、ディアンヌ・ルクセル、アナエル・スノーク、マチルド・ワルニエ、サム・ルーウィック、エリナ・レーヴェンソン

20世紀初頭。良家出身の5人の少年が、ある日、解放的な気分に魔が差して、卑劣な罪を犯してしまう。罪を償うため謎の船長に預けられた少年たちは、過酷な航海の旅へと連行される。そこで密かに反乱を企てる5人だが、ある無人島に座礁すると、そこには快楽を与えてくれる幻想的な植物が生い茂り、いつの間にか欲望に溺れていく。すると、少年たちの身体は次第に変異していき、ゆるやかにジェンダーの境界線が溶けていく…。デジタルトリックに一切頼らない、驚くべき造形の美しさも見所のひとつ。

「ベルトラン・マンディコの映画はどのジャンルにも属さない。彼は、20歳から独自のジャンルを忍耐強く構築してきたのだ。マンディコの映画における幻想的なるものは自然の中に存在している。彼がカメラを置くのは、草木が繁茂し、官能的で突然変異する場所だ」―ステファン・デュ・メスニル（映画批評家、カイエ・デュ・シネマ誌同人）

© 2015 Migrant Birds Association / THE FILM SCHOOL OF TOKYO
[日本／2015年／157分／カラー／デジタル／日本語]

ジョギング渡り鳥｜ *Jogging Wataridori* de Takuji Suzuki

＜第8回 TAMA 映画賞特別賞受賞＞

監督：鈴木卓爾
出演：中川ゆかり、古屋利雄、永山由里恵、古川博巳、坂口真由美、茶円茜、矢野昌幸、小田篤、古内啓子、柏原隆介、小田原直也、吉田庸、佐藤駿、山内健司、兵藤公美、古澤健

遠い星からやってきたモコモコ星人は、神を探す長い旅を経て地球にたどり着いた。母船が壊れ帰れなくなった彼らは、とある町の人々をカメラとマイクで観察しはじめた。人間のように「わたし」と「あなた」という概念がない彼らは、いつしか町の人々が直面している「わたしはあなたではない」という近代人間的事実に直面する―。果たしてモコモコ星人は「神」と出会うことができるのか。 地球人と宇宙人が入り乱れて織りなすドタバタ青春群像は、不思議なポリフォニーとなって、やがて魂を震わすコーラスを奏ではじめる。

「これこそ真の意味でリアルな映画なのだ。その稀有のリアルさを体験すべく、衛星に乗ってでも映画館へかけつけよ！！！」―**蓮實重彦（映画評論家）**

ユベール・ヴィエル x 清原惟　Hubert Viel x Yui Kiyohara

近年の写実的な潮流を好むフランス映画に対抗し、寓話的で瑞々しいポエジーを蘇らせたユベール・ヴィエル監督の奇跡のような長編処女作『アルテミス、移り気なこころ』の待望の再上映とともに、日本の映画史を更新する鮮烈な手法と天才的な感性で観る者を魅了する清原惟監督の劇場デビュー作『わたしたちの家』をお届けします。

★『わたしたちの家』上映後、清原惟監督、諏訪敦彦監督によるアフタートークを予定。

© Les Artisans du Film
[フランス／2013年／59分／モノクロ／デジタル／フランス語／日本語字幕]

アルテミス、移り気なこころ｜ *Artémis, cœur d'artichaut* d'Hubert Viel

＜2013年ブリイヴ・ヨーロッパ中編映画祭グランプリ受賞＞

監督：ユベール・ヴィエル
出演：フレデリック・バレー、ノエミ・ロセ、ユベール・ヴィエル

月の女神アルテミスが、現代社会に舞い降りた。美術学校の学生となったアルテミスは、ちょっと内気で変わった女の子。ある日、学校の食堂で快活で奔放なカーリイと出会い、人生が一変する。2人で海辺でキャンプをしたり、気になる男の子に話しかけたり、現実と寓話が同居しながら、かけがえのない時間を過ごす友情を描いたガールズロードムービー。メタフィクション的な語りとスーパー8のモノクロ映像が、ヌーヴェル・ヴァーグの瑞々しさを感じさせながら、初期映画のようなコミカルさも併せ持つ、映画づくりの煌きに満ちた珠玉の一本。

「かつてはみな子どもで、嘘も本当も、神も人間も、楽しさも悲しさも、映画の魔法のなかで一緒だった。灰色の21世紀に輝く宝石のような映画。アルテミスとカーリイの2人にありったけの愛を込めて！」―**野本幸孝（編集者）**

© 東京藝術大学大学院映像研究科
[日本／2017年／80分／カラー／デジタル／日本語]

わたしたちの家｜ *Our House* de Yui Kiyohara

＜2017 年 PFF アワードグランプリ受賞＞

監督：清原惟
主演：河西和香、安野由記子、大沢まりを、藤原芽生、菊沢将憲、古屋利雄、吉田明花音、北村海歩、平川玲奈、大石貴也、小田篤、律子、伏見陵、タカラマハヤ

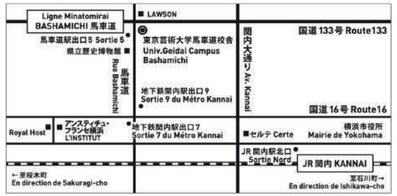
セリはもうすぐ14歳。父親が失踪して以来、母親の桐子と2人暮らし。最近、お母さんに新しい恋人ができて複雑な気持ちになっている。さなは目覚めるとフェリーに乗っており、自分に関する記憶がなくなっていた。彼女は船内で出会った女性、透子の家に住まわせてもらうことになる。セリとさな、2人の別々の物語が、ひとつの「家」の中で交錯する…。ベルリン国際映画祭、香港国際映画祭、バルディビア国際映画祭など、海外からの招聘も相次いでいる。

「1＋1が2になるのではなく、互いに依存することも葛藤することもなく、ただ1と1としてあることで世界を開いてゆく。その"開かれ"に風が吹き込むとき、ふたつの淡い物語の旋律はやがてひとつの響きとなって、世界をみずみずしく息づかせるのだ」―**諏訪敦彦（映画監督）**

横浜会場：東京藝術大学（横浜・馬車道校舎）Université des Beaux-Arts de Tokyo (Campus Bashamichi)

11.17（土）	14:00	ジョギング渡り鳥 *Jogging Wataridori*（157分）
	17:00	ワイルド・ボーイズ *Les Garçons sauvages*（110分） 上映後、アフタートークあり（ゲスト：ベルトラン・マンディコ、鈴木卓爾、エリナ・レーヴェンソン）
12.8（土）	15:30	アルテミス、移り気なこころ *Artémis, cœur d'artichaut*（59分）
	16:50	わたしたちの家 *Our House*（80分） 上映後、アフタートークあり（ゲスト：清原惟、諏訪敦彦）

●入場料金：一般 1200円 / アンスティチュ・フランセ会員・学生：600円 / 東京藝術大学の学生無料（同日２作品セットでのご購入は、一般 1800円）●チケット販売：前売券の販売はございません。当日券は、会場の東京藝術大学（横浜・馬車道校舎）にて 1本目の開演 30分前より販売、現金支払いのみ。●開場は、1本目開演 30分前、2本目開演 20分前より。1本目と 2本目のチケットを同時にご購入いただけます。●全席自由・番号順でのご入場・各回入替制。●プログラムはやむを得ない事情により変更される場合がございますが、予めご了承ください。



[会場] 東京藝術大学（横浜・馬車道校舎）
〒231-0005　神奈川県横浜市中区本町 4-44

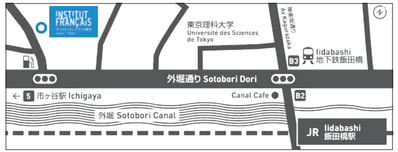
[お問い合わせ] アンスティチュ・フランセ横浜（旧・横浜日仏学院）
〒231-0015　横浜市中区尾上町 5-76　明治屋尾上町ビル 7階
TEL 045-201-1514　**WEB** www.institutfrancais.jp/yokohama/

東京会場：アンスティチュ・フランセ東京
Institut français du Japon – Tokyo

10.29（月）	15:30	コレクションする女 *La Collectionneuse*（91分）
	18:00	この夏の感じ *Ce sentiment d'été*（106分） 上映後、トークショーあり（ゲスト：ミカエル・アース） suivi d'une rencontre avec Mikhaël Hers
11.4（日）	13:15	この夏の感じ *Ce sentiment d'été*（106分）
	16:00	コレクションする女 *La Collectionneuse*（91分）
11.9（金）	15:30	人間ピラミッド *Pyramide humaine*（90分）
	18:00	波のした、土のうえ *Under the wave, on the Ground*（68分） ＋ The COCKPIT *The Cockpit*（64分） 上映後、トークあり（ゲスト：三宅唱） suivi d'une rencontre avec Sho Miyake
11.28（水）	16:45	ヴァンサンには鱗がない *Vincent n'a pas d'écaille*（78分）
	19:00	丸 *Maru*（68分） 上映後、トークあり（ゲスト：レオ・ソエサント、鈴木洋平） suivi d'une discussion avec Léo Soesanto et Yohei Suzuki
11.29（木）	15:45	無頭人 *Acéphale*（65分）＋ ヴィット *Vite*（37分）
	18:30	TWICE *Deux fois de Jackie Raynal*（90分） 上映後、トークあり（ゲスト：ジャッキー・レイナル、フィリップ・アズーリ） suivi d'une discussion avec Jackie Raynal et Philippe Azoury
11.30（金）	16:45	パリところどころ *Paris vu par...*（95分）
	19:00	現像液 *Le Révélateur*（67分） 上映後、フィリップ・アズーリによる講演あり suivi d'une conférence par Philippe Azoury

●入場料金：一般 1200円 / 学生 800円 / アンスティチュ・フランセ会員 500円●チケット販売：上映当日各回の 30分前から上映開始 10分後まで。チケット販売時間内には、当日すべての回のチケットをご購入いただけます。●全席自由。整理番号順での入場とさせていただきます。また、上映開始 10分後以降の入場は、他のお客さまへの迷惑となりますので、固くお断りいたします。●プログラムはやむを得ない事情により変更される場合がございますが、予めご了承ください。

12.1（土）	13:30	パリところどころ *Paris vu par...*（95分）
	16:00	ニューヨーク・ストーリー *New York Story*（28分） ＋地中海 *La Méditerranée*（43分）
12.2（日）	12:30	ランゲン *Rengaine*（75分）
	14:45	ヴァンサンには鱗がない *Vincent n'a pas d'écaille*（78分）
	17:00	現像液 *Le Révélateur*（67分）
12.7（金）	14:45	彼女は陽光の下で長い時間を過ごした *Elle a passé tant d'heures sous les sunlights*（130分）
	18:00	アウトゼア *Out there*（125分） 上映後、トークショーあり（ゲスト：伊藤丈紘、濱口竜介） suivi d'une discussion avec Takehiko Ito et Ryusuke Hamaguchi
12.8（土）	12:30	ニューヨーク・ストーリー *New York Story*（28分） ＋地中海 *La Méditerranée*（43分）
	14:45	ランゲン *Rengaine*（75分）
	17:05	セックス・アンド・ザ・フェスティバル *Les Coquillettes*（75分）
12.9（日）	14:00	シネ・リセ　若者向け映画講座 講師：須藤健太郎 *Ciné Lycée* ヴァンサンには鱗がない *Vincent n'a pas d'écaille*（78分）



[会場・お問い合わせ] アンスティチュ・フランセ東京（旧・東京日仏学院）
〒162-8415　東京都新宿区市谷船河原町 15
TEL 03 5206-2500　**WEB** http://institutfrancais.jp/tokyo/

日仏インディペンデント映画特集　主催：アンスティチュ・フランセ日本　助成：アンスティチュ・フランセパリ本部　アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー：CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE　フィルム提供及び協力：愛知芸術文化センター、Les Artisans du Film、シネマテーク・フランセーズ、シネマテーク・ドゥ・トゥールーズ、同志社大学今出川校地学生支援課、パトリック・デュプティル、Ecce Films、EYES FILMS、レ・フィルム・デュ・ロザンジュ、フィリップ・ガレル、小森はるか＋瀬尾夏美、HEADZ、マーメイドフィルム、Migrant Birds Association カプリコンフィルム、Pigdom、ピラミッド・インターナショナル、ジャッキー・レイナル、幀超南梁子、ザジフィルムズ、ボルドー国際インディペンデント映画祭、広島国際映画祭実行委員会、TAMA 映画フォーラム実行委員会、第31回東京国際映画祭、ユニフランス　後援：横浜市文化観光局

Films Indépendants de France et du Japon　Organisé par : Institut français du Japon　Avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE, et la Ville de Yokohama　Merci à : The Archi Arts Center, Les Artisans du Film, la Cinémathèque française, la Cinémathèque de Toulouse, Doshisha University, Patrick Deval, Ecce Films, EYES FILMS,Les Films du Losange, Philippe Garrel, Komori Haruka + Seo Natsumi, HEADZ, Mermaid Films, Migrant Birds Association / Kapricorn Film, Pigdom, Pyramide International, Jackie Raynal, Nanako Tsukitate,Zazie Films, Festival International du Film Indépendant de Bordeaux, Hiroshima International Film Festival, Tama Cinema Forum, 31st Tokyo International Film Festival et UniFrance.

日仏交流 160周年
160e Anniversaire des relations franco-japonaises

REGARDS CROISÉS　交差する視点 日仏インディペンデント映画特集
FILMS INDÉPENDANTS FRANCE & JAPON

ゲスト Invités：フィリップ・アズーリ、ミカエル・アース、濱口竜介、伊藤丈紘、清原惟、エリナ・レーヴェンソン、ベルトラン・マンディコ、三宅唱、ジャッキー・レイナル、レオ・ソエサント、須藤健太郎、諏訪敦彦、鈴木卓爾、鈴木洋平（アルファベット順）

東京　2018.10.29［月］―12.9［日］　会場：アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ
TOKYO | du 29 octobre au 9 décembre 2018 à l'Institut français du Japon - Tokyo

横浜　2018.11.17［土］| 12.8［土］　会場：東京藝術大学（横浜・馬車道校舎）
YOKOHAMA | les samedis 17 novembre et 8 décembre 2018 à l'Université des Beaux-Arts de Tokyo (Campus Bashamichi)

vivre les cultures

フィルムからデジタルへと移行し、映画の多様な形態、方法が模索される現在、何をもって「インディペンデント映画」とよぶことができるのか、あるいはよぶべきなのか。本特集上映ではそうした問いを掲げながら、フランスと日本において、自分たちが撮りたい、撮るべきだという想い、信念のもと、様々な制約、困難を乗り越えて、映画の可能性を切り拓く独創的な作品を生み出している日仏の作り手たちを迎え、彼らの作品、あるいは彼らがセレクトした作品を、横浜、東京、両会場にて特集します。

東京会場 TOKYO
ボルドー国際インディペンデント映画祭をめぐって
Hommage au Festival international du Film indépendant de Bordeaux

2012 年オリヴィエ・アサイヤスのサポートのもと誕生したボルドー国際インディペンデント映画祭は、海外の若手インディペンデント監督の才能を発掘し、映画のほか、音楽イベントも開催し、若い観客を魅了しながら年々参加者が増えています。日本の若手監督も積極的に紹介されており、2013 年に富田克也監督特集、そして今年は濱口竜介監督特集が予定されています。同映画祭のアーティスティック・ディレクター、レオ・ソエサントを迎え、同映画祭の受賞作品を特集します。また映画監督であり、クラブ CINEMA VOICE などでプログラマーとしてインディペンデント映画を紹介している鈴木洋平とのディスカッションも予定しています。

この夏の感じ | *Ce sentiment d'été* de Mikhaël Hers
オープニング上映／第31回東京国際映画祭関連企画

監督：ミカエル・アース
出演：アンデルシュ・ダニエルセン・リー、ジュディット・シュムラ、マリー・リヴィエール

夏のある日、30歳にして突然逝ってしまったサシャ。残された恋人のロレンスと、サシャの妹のゾエ。互いをあまり知らなかった二人の間に、サシャを失った苦悩、彼女の不在の重みをともにすることで、少しずつ近づいていく。ベルリン、パリ、ニューヨーク。3つの街に3度の夏が訪れ、愛した人の記憶に導かれながら、彼らもやがて人生の光を少しずつ取り戻していく。第4回ボルドー国際映画祭グランプリ受賞。新作『アマンダ（原題）』は第31回東京国際映画祭コンペティション部門に出品。

（フランス＝ドイツ／2015年／106分／カラー／デジタル／日本語字幕）

ランゲン | *Rengaine* de Rachid Djaïdani

監督：ラシド・ジャイダニ
出演：スリマン・ダジ、サブリナ・ハミダ、ステファン・ソー・モンゴ

パリに住むキリスト教徒の黒人ドルシィは、美しいマグレブ人女性サブリナとの結婚を願っている。しかし、ふたりの結婚の前には黒人社会とアラブ社会、2つのコミュニティーに根付いた考え方の違い、タブーによって様々な障害が立ちはだかる…。熱に浮かされたような俳優たちの存在感が忘れられない作品。「ランゲン」とは「聞きさされた流行歌」の意。第 I 回ボルドー国際映画祭グランプリ受賞、カンヌ国際映画祭監督週間出品作品。

（フランス／2012年／75分／カラー／デジタル／日本語字幕）

セックス・アンド・ザ・フェスティバル | *Les Coquillettes* de Sophie Letourneur

監督：ソフィー・ルトゥルヌール
出演：カミーユ・ジュノー、キャロル・ルバージュ、ソフィー・ルトゥルヌール、ルイ・ガレル

映画業界って言ったって、いつもいつもスターの登場するレッド・カーペットとかプティ・フールの並ぶパーティーのようにグラムールってわけじゃない。どうってことないチーズマカロニみたいなものなのだ！恋に悩む不器用な愛すべき三人娘がスイスの映画祭に向かう。ミーハーなソフィーは、この映画祭でただ一人の有名俳優に夢中で、ロマンティックなカミーユは不可能な恋物語を夢見ている。一方、実用的なキャロルはただ“男と寝たい”だけ…。第 I 回ボルドー国際映画祭ノミネート作品。

（フランス／2012年／75分／カラー／デジタル／日本語字幕）

ヴァンサンには鱗がない | *Vincent n'a pas d'écailles* de Thomas Salvador

監督：トマ・サルヴァドール
出演：トマ・サルヴァドール、ヴィマラ・ポンス、ユセフ・ハジディ

ヴァンサンはスーパーパワーの持ち主だ。その能力とは彼が水に触れると肉体の力と思考力が超人的に増大するものだった。この自分の能力を存分に発揮するため、湖と川が豊かで静かな土地へと住み着いたヴァンサン。その地で偶然出会ったリュシーと恋に落ち…。監督自身が「スーパーマン」を演じるファンタスティック・ラブストーリー。第3回ボルドー国際映画祭グランプリ作品。

（フランス／2014年／78分／カラー／デジタル／日本語字幕）

※12/9（日）の上映はシネ・リセ-若者向け映画講座-です。上映と解説を含め、3時間から3時間半程度を予定しています（中学生以上、22歳程度までの方対象。）

東京会場 TOKYO　新世代の監督たち
Nouvelle génération des cinéastes japonais

三宅唱 Sho Miyake

The COCKPIT | *THE COCKPIT* de Sho Miyake

［日本／2014年／64分／カラー／デジタル／英語字幕］

監督：三宅唱　出演：OMSB（SIMI LAB）、Bim（THE OTOGIBANASHI'S）ほか

注目のヒップホップ・アーティストOMSBとBim、そして仲間たちも加えた、真剣だけどコメディ映画みたいににぎやかな音楽づくり。『THE COCKPIT』はそれを記録することで、同じようにわたしたちの日常と創作とを繋いでみせる。刺激的な創造行為の貴重な記録であると同時に、若者たちのユーモラスで愛おしい日常の記録でもある、これはそんなドキュメンタリー。パリの「ポンピドゥー・センター」で開催される国際ドキュメンタリー映画祭シネマ・デュ・レエル新人監督部門に出品され好評を得た。

三宅唱セレクション　Carte blanche à Sho Miyake

波のした、土のうえ | *Under the wave, on the Ground* de Haruka Komori & Natsumi Seo

［日本／2014年／68分／カラー／デジタル／英語字幕］

制作：小森はるか＋瀬尾夏美（テキスト：瀬尾夏美　撮影、編集：小森はるか）出演：阿部裕美、鈴木正春、紺野勝代、瀬尾夏美

津波に遭遇した沿岸の町・陸前高田で出会った人々の言葉と風景。その3年８ヶ月の記録から物語を起こすように構成された3編の映像。この町に暮らしていた人々と、2人組のアートユニット“小森はるか＋瀬尾夏美”が協同で制作。まず、被写体となる住民の方に繰り返しインタビューしたものを瀬尾が物語に起こす。それを再度、本人に戻して訂正や調整、書き換えを行いながら朗読。書き直しと朗読を繰り返した声と、この町の風景を重ねるように小森が映像を編んで作り上げられた。

人間ピラミッド | *Pyramide humaine* de Jean Rouch

［フランス／1961年／90分／カラー／DVD ／日本語字幕］

監督：ジャン・ルーシュ

1959年、アビジャンの高校に新入生ナディーヌがやってきた。ジャン・ルーシュによって集められた生徒たちは黒人と白人の間の新たな関係を通して生まれる友情関係、愛情関係についての「フィクション」に自分自身の役を演じながら参加する。

鈴木洋平 Yohei Suzuki

丸 | *Maru* de Yohei Suzuki

［日本／2014年／89分／カラー／デジタル／英語字幕］

監督・脚本・編集：鈴木洋平　出演：飯田 芳、木原勝利、池田 将、金子鈔里、軽部日登美、村上 ROCK

大阪のある一軒家で父子心中未遂事件が発生。心中を図った父親は銃で自殺。容疑者死亡により裁判なしの有罪となる。生き残った家族は何も語らず、現場にいた次男は事件のことを思い出そうとすると突発的に時間が止まったかのように静止してしまうのだった……。現場で何を目撃したのか？本当に心中未遂事件だったのか？記者・出口が調べるに従って、事件の真相は不条理な世界に突入していく。New Directors / New Films 2015、ロッテルダム国際映画祭に正式出品作品。

伊藤文紘 Takehiro ITO

【特別プレミア上映】アウトゼア | *Out there* de Takehiro Ito

［日本＝台湾／2016年／125分／カラー＆モノクロ／デジタル／日本語字幕］

監督：伊藤文紘　出演者：馬君馳、小林晴夫、北浦愛、服部竜三郎、瀬戸夏実

映画監督である晴夫は、台湾で撮影予定の新作が資金難のため制作中断となり、撮影済のテストフィルムだけが手元に残った。 そんな中、晴夫はオーディションに応募してきた台湾人青年、馬と出会う。台湾と日本を舞台に、前半部の映画づくりの様子や監督と青年との対話が、やがて台湾現代史を背景にした家族の記憶、そして「いまここ」で生きる青年の実人生の姿へとつながり、渾然一体に映し出されていく。過去と現在、ドキュメンタリーとフィクションが越境していく可能性を見つめた作品で、マルセイユ国際映画祭を皮切りに、ロッテルダムやトリノなど世界各地の映画祭で上映され注目を集める。今回が日本でのプレミア上映となる。

伊藤文紘セレクション　Carte blanche à Takehiro Ito

彼女は陽光の下で長い時を過ごした | *Elle a passé tant d'heures sous les sunlights* de Philippe Garrel

［フランス／1985年／130分／モノクロ／デジタル／無字幕・作品解説配布］

監督：フィリップ・ガレル　出演：ミレイユ・ペリエ、ジャック・ボナフェ、アンヌ・ヴィアゼムスキー

愛する女性が去ってしまったことで混乱し、悲しむ若き映画監督にシャルル・ペローの「白雪姫」をコメディ・フランセーズで演出する企画を持ちかけられる。シネマテーク・フランセーズによってデジタル修復されたバージョンで日本初上映。

『『彼女は陽光の下で長い時を過ごした』には直線で語られるようなストーリーはない。つねに夢、現実、想像の３つのレベルがあり、それらが時に結びつく。』（フィリップ・ガレル）

広島国際映画祭関連企画
ザンジバル、パリ／ＮＹ　インディペント映画の変遷　ジャッキー・レイナルを迎えて
Hommage à Jackie Raynal Zanzibar ou l'histoire des films indépendants à Paris et à NY

ジャッキー・レイナル（1940 ～）はヌーヴェル・ヴァーグの映画作家たち（とくにエリック・ロメール）の作品の編集を手がけるのと平行して、68年５月の影響下で結成された映画作家と前衛芸術家たちの集団『ザンジバル』にセルジュ・バール、フィリップ・ガレル、ダニエル・ポムルール、ベルナデット・ラフォンらと参加。その後、ニューヨークのブレッカーストリートシネマ、カーネギー・ホールなどでプログラマーとしてマルグリット・デュラス、ジャン＝リュック・ゴダール、シャンタル・アッケルマン、ジャック・リヴェットらの作品を紹介してきました。パリ、ニューヨークとインディペンデントな映画の製作、紹介において重要な役割を担ってきたジャッキー・レイナル、そして映画批評家のフィリップ・アズーリを迎えた特集を開催します。

68年５月のダンディー、ザンジバルグループを巡って　Autour de groupe Zanzibar

トゥワイス | *Deux fois* de Jackie Raynal

監督：ジャッキー・レイナル
（フランス／1968年／72分／モノクロ／35mm／日本語同時通訳付）
シネマテーク・ドゥ・トゥールーズ所蔵作品

レイナルの初監督長編で、バルセロナを舞台に、68年５月革命直後の抗いがたい公気が表現されている。1972年イエールヤングシネマ映画祭にてグランプル受賞。

「眼差しの帝国主義が抑制していたものを再発見させてくれる女性形の映画。」（セルジュ・ダネー、「カイエ・デュ・シネマ」）

ヴィット | *Vite* de Daniel Pommereulle

監督：ダニエル・ポムルール
（フランス／1970年／37分／カラー／35mm／日本語同時通訳）
シネマテーク・ドゥ・トゥールーズ所蔵作品

前衛芸術家であったダニエル・ポムルールは俳優として出演した『コレクションする女』の中で、「空虚 VIDE」について哲学的議論を行う。その3年後、ある意味「空虚 VIDE」を「ヴィット（速く）VITE」に変換して構想されたのが本作になる。68年５月革命に深く失望し、緩慢なる宣戦布告を行う『ヴィット』は、ポムルール自身演じる男が少年を引き連れ、モロッコの砂漠を放浪するシーンと超望遠鏡で撮影された月の映像などで構成されている。

無頭人 | *Acéphale* de Patrick Deval

監督：パトリック・デュヴァル
出演：ローラン・コンドミダス、ジャック・バラティエ、パトリック・デュヴァル
（フランス／1968年／65分／モノクロ／デジタル／日本語同時通訳）
シネマテーク・ドゥ・トゥールーズ所蔵作品

パリとよぼしき場所を放浪する若者。いつの日か未開の森に入り込み、共同体を築く。しかし窮屈に感じ、ふたたび独りとなり、夜を絶望的に歩き続き、ひとりの女と出会う…。1968年夏に撮影され、ザンジバルの共同体としてのあり方を暗喩した作品。第一回カンヌ監督週間出品作品。

現像液 | *Le Révélateur* de Philippe Garrel

監督：フィリップ・ガレル
出演：ベルナデット・ラフォン、ローラン・テルジェフ、スタニスラス・ロビオル
（フランス／1968年／67分／モノクロ／35mm／サイレント・作品解説配布）
シネマテーク・フランセーズ所蔵作品

「黒い森」の中、未知なる危険から一組の男女と彼らの子供が逃れようとする。

『『現像液』は故意に幻想的な映画として作られ、精神分析において原光景と呼ばれるものを巡って撮られた。映画はどのように生まれるのか、子供はどのように作られるのか、そして両親が愛し合っているところを子供が始めて見る瞬間について撮られた。』（フィリップ・ガレル）

ジャッキー・レイナル関連作品　Autres films

地中海 | *Méditerranée* de Jean-Daniel Pollet

監督：ジャン＝ダニエル・ポレ
音楽：アントワーヌ・デュアメル
（フランス／1963年／43分／カラー／デジタル
ベータカム／日本語字幕）

フィリップ・ソレルスのテキストにのせて、象徴的なオブジェ（彫像、寺院、ピラミッド、闘牛）を日常のありふれたオブジェと比較することで、事物の「具体性」という性格を象徴的なオブジェに取り戻させている。映像は、それ自体輝きと優しさを湛えているが、地中海の暴力性もまた備えている。ジャッキー・レイナルの編集による。

コレクションする女 | *La Collectionneuse* d'Eric Rohmer

監督：エリック・ロメール
出演：パトリック・ボーショー、アイデ・ボリトフ、ダニエル・ポムルール
（フランス／1967年／90分／カラー／デジタル／日本語字幕）

アドリアンは、所用でロンドンに向かう恋人と離れ、大きく物静かな別荘で修道士のような休暇を過ごすことにしたが、そこにはすでに友人のアーティスト、ダニエルとアイデという若い娘がいて…。ジャッキー・レイナルは、本作でも編集を担当。ザンジバルのメンバーであるダニエル・ポムルールやアラン・ジュフロワが出演しており、ザンジバル誕生前夜に撮影され、その後の68年五月革命やザンジバルの在り方を予言した作品と評されている。

パリところどころ | *Paris vu par…*

監督：ジャン＝ダニエル・ポレ（第一話＝「サン＝ドニ街」）、ジャン・ルーシュ（第二話＝「北駅」）、ジャン・ドゥーシェ（第三話＝「サン・ジェルマン＝デ＝プレ」）、エリック・ロメール（第四話＝「エトワール広場」）、ジャン＝リュック・ゴダール（第五話＝「モンパルナスとルヴァロワ」）、クロード・シャブロル（第六話＝「ラ・ミュエット」）
出演：ミシュリーヌ・ダクス、ナディーヌ・バロー、バーベット・シュローダー、ジョアンナ・シムカス、ステファーヌ・オードラン
（フランス／1965年／97分／カラー／35mm ／日本語字幕）

ヌーヴェル・ヴァーグを代表する6人の監督による、パリの6つの場所を舞台にした短編オムニバス映画。それぞれの地区での人間模様がシニカルな目線で描かれる。ジャッキー・レイナルは、本作の映像、音響の編集を担当した。

ニューヨーク・ストーリー | *New York Story* de Jackie Raynal

監督：ジャッキー・レイナル
（アメリカ／1981年／28分／カラー／デジタル／オリジナル英語版・作品解説配布）

自伝的作品で、ジャッキー・レイナル自身が演じるルルがブロードウェイをさまよいながら映画編集の仕事を探している。

「バスター・キートンとウッディ・アレンを思わせながらも、さらにとらえがたく、可笑しい。」（エイミー・タービン、『ソーホー・ニュース』）

CINEMATHEQUE FRANÇAISE　LA CINÉMATHÈQUE DE TOULOUSE　広島国際映画祭